

講義名	金融論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	内山 勝久		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング/2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この授業は、金融論の入門レベルの講義を行い、経済学部の学生が最低限身につけるべき知見の習得を目的とします。経済活動においては財・サービスの取引と並んでお金の流れやお金の取引（金融）が重要な役割を果たします。金融に関する知識は社会生活において不可欠ですが、大学生は社会人としての経験に乏しいのでピンと来ない部分も多くあるかもしれません。授業では我々の生活に身近な金融商品の特徴から始め、金融システムの役割、金融システムやマクロ経済を安定化させるための政策などについて解説・検討し、金融活動を通じた経済の仕組みを学びます。各受講生が興味を持てるように、企業金融に関するトピックスについても採り上げる予定です。

到達目標

各受講生がわが国の金融システムや企業金融についての基本的な知識を習得し、金融に関する新聞記事やテレビニュースを理解して他者に説明できるようになると、その上で現実の経済を金融の側面から観察して自分なりの見解を持ち、将来の経済の動きに対して展望を持てるようになることを目指します。

提出課題

中間課題として、期中にレポートを提出してもらう予定です。詳細については授業内で説明します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出されたレポートについては、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

中間課題レポート40％、期末試験60％の比率で評価します。授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、上記の配点を超過して加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

この授業は「金融資産の運用」（株式投資など）を解説するものではありません。そのように考えている学生には期待外れの退屈な授業となるでしょう。履修はお勧めしません。より発展的に金融を学びたい学生には「金融政策論」や「国際金融論」の授業を履修することを推奨します。授業中の私語は禁止です。他の意欲的な学生にとって大きな迷惑行為となりますので、厳に慎んでください。質問等で発言が必要な場合は挙手の上行ってください。

教科書

特定の教科書は使用しません。

プリント資料及び参考文献

担当教員が作成した資料を毎回配布します（配布の方法については初回の授業時に説明します）。授業では以下の文献を頻繁に参照する予定です。必要に応じて入手してください。
・家森信博、「金融論（第2版）」（ベシックプラス）、中央経済社、2019年。
・中島昌志、「入門 企業金融論」、東洋経済新報社、2015年。
その他の参考文献は授業中に適宜紹介します。

授業計画

- 第1回 インテロダクション： 授業のねらいや経済活動と金融の役割について
- 第2回 金融システムと金融仲介機関の役割： 金融システムの役割と銀行の特徴について
- 第3回 銀行以外の金融機関： 証券会社や保険会社の特徴について
- 第4回 間接金融型の金融商品： 預貯金や保険商品の特徴について
- 第5回 直接金融型の金融商品： 公社債や株式の特徴について
- 第6回 企業の資金調達（1）： 企業活動と資金需要、資金調達の形態について
- 第7回 企業の資金調達（2）： 借入金や社債発行による資金調達について
- 第8回 企業の資金調達（3）： 株式発行による資金調達について
- 第9回 貨幣： 貨幣の定義や機能、貨幣と物価の関係について
- 第10回 金利： 利率の決定や実質や債券価格との関係について
- 第11回 為替レート： 通貨制度、為替レートの決まり方について
- 第12回 金融規制： 金融システム安定化のための制度や規制について
- 第13回 金融政策の課題と日本銀行： マクロ金融政策の目的や中央銀行の機能について
- 第14回 金融政策の基本手段と新しい展開： 金融政策の手段やメカニズムについて
- 第15回 全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に、授業で取り上げるテーマについて参考文献の該当箇所を予め読み、不明な点をまとめておいてください（その上で授業に臨むこと）：約1時間。
授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください（復習してわからなかった点は質問してください）：約1時間。さらに毎回の授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞・経済雑誌・ウェブサイトなどでより詳しく調べて、自分の問題意識を醸成してください：約2時間。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考